

第2回山形県立図書館活性化検討委員会 議事録

期 日：平成27年7月30日（木）

時 間：13:30～15:15

場 所：県庁1001会議室

1 開 会

2 山形県教育委員会挨拶【鈴木室長】

3 協 議【座長：逸見委員長】

(1) 基本構想（案）について

(ア) 各種調査の結果について

- ・TRCよりインターネット調査、グループインタビュー調査（調査中）について、イリアより積載荷重調査について、それぞれ報告。

醍醐委員（代理）

飲食ができたらいいいという意見が多い。一部に実施している図書館もあるが、していない図書館が多い。実際に許すとしたら、本が汚損される等のほかにどういうハードルがあるのか。

回答（TRC）

課題として、ゴミや清掃、においの問題、資料の汚れがある。実施しているところでは、飲み物が飲めるエリアを限定している場合がある。

回答（板垣館長）

県立図書館においては、平成27年2月からブラウジングコーナー（新聞・雑誌コーナー）に限ってのペットボトルや水筒等の蓋付飲料の持ち込みを解禁している。

(イ)－①基本構想「本との新たな出会いを生み出す『ときめく図書館』」について

大沼委員

「ときめく」という言葉について、今の県立図書館の雰囲気と合わない気がする。これからこのキャッチフレーズを使っていくのか。

回答（大場生涯学習施設主査）

開架書架を増やし、本に囲まれた空間を作りたいと考えている。目的の本を探しに行つて、新たな本との出会いがある、また図書館に行つて違う本を借りたくなるということを目指したい。

逸見委員長

「ときめく」という言葉にはわくわくする感じも含まれていると思う。

醍醐委員（代理）

言葉として女性的なニュアンス、イメージを含んでいる気がする。女性が行きやすいという視点は大事。おしゃれであるとか親しみやすいとか空間の持つイメージに関係してくる。女性が来てくれるということは大事なポイントになってくると思われる。

山形でああいったものがないとは限らないが、洗練された代官山の蔦谷書店のような都会的なものも出てきている中で、山形県立図書館がどうあるべきかを考える機会としてはいいのではないか。

逸見委員長

開架率の向上とは具体的にどの程度を考えているか。

回答（大場生涯学習施設主査）

今回の積載荷重調査を受けての概略試算で45万冊程度の開架が可能で、現在の開架数を約2倍に増やせるとわかった。現在の開架率は約27%で、本の置き方にもよるが、これを倍近くに引き上げられないかと考えている。

大沼委員

県立図書館と市町村の図書館では役割が違う。平成26年度、山形県図書館協議会がまとめた「県立図書館の将来のあり方について」には、「県民のあらゆる活動を支え、地域の課題解決に貢献する知の拠点」という基本理念が掲げられている。どのような本との出会いを作り出すかを意識しないといけない。

回答（大場生涯学習施設主査）

県立図書館には市町村図書館が対象としない高度な専門書や郷土資料等を収集する役割がある。本との出会いについても、ベストセラー的な本のみを出すだけではないと考えている。どういう本を収集していくかについて、今後も継続的に検討していきたい。

大沼委員

これまで県立図書館と市町村図書館の違いを気にせずにご利用してきたが、県立図書館しかできないのはこれだと、アピールしていくべき。

回答（板垣館長）

蔵書構成について、児童書の割合が低く、一般書の割合が高い。文学・文芸の本、副本が多い市町村図書館と比べると、県立図書館は自然科学、社会科学等の図書が充実しており、様々な調べ物に対応が可能という特徴がある。今後も県立図書館としての役割を意識して、選書・収集していきたい。

(イ)－②基本構想「課題解決のきっかけとなる『頼れる図書館』」について

醍醐委員（代理）

各団体や個人が持っている課題にどうアプローチできるかということになるだろうが、学生は本を読まない。学生が調べ物をする場合インターネットによることが多い。リアルタイムで便利であるが、本の優位性を語りたい。司書への相談などを通して、課題解決の場として図書館が頼りになる存在になってもらえるとありがたい。今回、調査を行っている地域の団体や学生や、たとえば地域の子育てグループのニーズに応えられるよう図書館機能を充実していく必要がある。また、図書館がちゃんとやっているというPRも大事である。

逸見委員長

現状を見ると図書館周辺の高校生の利用が多く、大学生の利用が少ないが何が一番の要因と考えられるか。

醍醐委員（代理）

本を買うにしてもインターネットの方が検索しやすく、直ぐに届く。社会人の場合、本を探しに行く手間もコストであるとも考えられ、ネット書店の方が優位となることがある。一方、学生の場合は収入が少ないので、そうしたコストをかけられるとして、図書館で本を借りるニーズがある。

大沼委員

図書館をどのように頼っていいのか、図書館の強みもわからない。図書館の使い方を教えてもらいたい。

回答（大場生涯学習施設主査）

相談においては司書が中心となるが、レファレンスサービスについての認知度を向上させるために情報発信を強化しなければならない。まずは、司書が県民の声に応えられるように能力を高めること、また、雇用のことについても考えなければならない。

逸見委員長

司書の配置状況は。施設の規模からみてどういう状況か。

回答（板垣館長）

カウンターを担当する司書は18名。

回答（TRC）

統計数値からみると、山形県の図書館面積当たりの職員数（人/1000㎡）は6.7人、貸出数当たりの職員数（人/10000冊）は2.2人である。全国平均はそれぞれ5.2人、2.0人で、全国的にはやや多い方である。

(イ)－③基本構想「先端的で多様なサービスを提供する『先導する図書館』」について

大沼委員

集客の催し物をするにしても、県民の知につなげるものでないと意味がない。様々な団体とつながるためには、つなぎ役のコーディネーターが重要であるが、そのためにはいわゆる司書とは違う人材が必要である。図書館と県民をつなぐ人、企画する人を配置することが必要である。

逸見委員長

現在の図書館のイベントはどこで企画しているのか。

回答（板垣館長）

図書館企画課や経営課の事務職員が企画展やイベントを担当している。

回答（鈴木室長）

遊学館の中には、生涯学習センターや男女共同参画センターも入っているので、違う角度からのイベントや講座の拡充も考えられる。

醍醐委員（代理）

デジタルサイネージ（電子看板）について、使い方次第でいろいろなことができる。本の検索や位置表示などを想定しているだろうが、アマゾン等のリコメンド機能（購入履歴等からのお勧め機能）が面白いと思う。個人情報指定管理者ににぎられていると思うが、武雄市図書館の場合、サービス提供のためとして、指定管理者に利用者の貸出履歴の管理も含めた委託を行っている。この案では、デジタルサイネージをど

ういうものとして想定しているのか。

回答（大場生涯学習施設主査）

検討委員会で議論をしながらと考えているが、単なる電子掲示板的に配置するのであればいけないのではとも思われる。

醍醐委員（代理）

複合施設として、それぞれの機能を持つ各センターとの連携が重要になってくる。各施設が引き立つような連携の仕組み、コーディネーター的な人の配置をどう考えるか。

大沼委員

先端的なサービスとは具体的にどういったものがあるか。

回答（大場生涯学習施設主査）

ICタグは、今年度導入予定であるが、図書にICタグを貼り、入口に持ち出し防止のゲートを設置することで、手荷物をコインロッカーに預けることなく図書館を利用できるようになる。また、貸出手続きや蔵書管理においても効率化が図られる。

デジタル書籍は、スマートフォンで本が読めたりするもの。紙の本とは別で、自分のPC等でコンテンツを閲覧できるもので、千代田区立千代田図書館等で導入している。コンテンツには有効期限があり、返却が不要というメリットがある。

有料データベースについては、企業等が提供する有料の新聞や雑誌の記事等を、図書館で無料で利用できるようにしているもの。利便性向上のために導入している図書館がある。

デジタルサイネージとは、電子掲示板的なもので、情報発信や情報共有のためのツールとして考えているが、スマートフォン等が普及している中なので、本当に必要か再考する必要があると考えている。

(イ)－④基本構想「県民の生涯学習を支援する『生涯学習の拠点となる図書館』」について

醍醐委員（代理）

芥川賞受賞で話題になった又吉氏の話だが、TV番組で小中高校・大学生各世代の子どもに対して、それぞれの年代別にこの夏休みに読んでもらいたいお薦めの本を理由とともに紹介していた。本好きの人は本を紹介することができて、すごいと感じた。街の中にそういう人たちがたくさんいて、図書館に関わってもらえる仕組みを作ることが重要と思った。例えば、八戸市では公設のブックセンター（本屋）を開設予定で話題になっている。ブックコーディネーターの内沼氏が関わっている。

私自身、子育て支援のための立川市子ども未来センターの運営に関わっているが、施設内に立川まんがばーく（蔵書5万冊の漫画図書館）があり、漫画喫茶みたいに大人400円、子ども200円で1日中滞在することができる。漫画好きの市民を集めて、漫画コンシェルジュになってもらって、巻き込んだ活動をしている例がある。コンシェルジュも市民も互いにメリットがあり、公共的な価値がある。県立図書館でもこうしたことができないか。生涯学習といってもいろいろな考え方があり、個人の趣味レベルのものや市民活動をプログラム化して、遊学館を拠点として新しい発想で展開していければ面白いと思う。

逸見委員長

県立図書館のボランティアの状況は。

回答（板垣館長）

山形県図書館協議会からの提案を受けて、7月に17人をボランティアとして採用し、これから活動を開始するところである。火・金・土曜日に数名ずつ図書館に来てもらい、書架整理や利用案内に従事してもらおう予定。コンシェルジュというところまで発展できればいいと思っている。

大沼委員

遊学館内の連携を進めるためにどう考えているか。

回答（鈴木室長）

先日視察を行った複合施設の武蔵野プレイスのような方法もやり方の1つである。見た目の体制だけではなく、機能しやすい組織体制として山形方式のものを考えていきたい。

大沼委員

生涯学習センターに研修室があるが、生涯学習を盛んにできるような図書館の機能があればと思う。

醍醐委員（代理）

ハードの部分に関して遊学館を大規模に改修するのか。

回答（鈴木室長）

予算のこともあるが、開架を増やすことになるので、大規模になると考えられる。

醍醐委員（代理）

既存の考え方だと図書館とにぎわいは相反するものであり、団体の活動が活発になってあんまり騒がしくなると、うるさいと言う人が出てくるかもしれない。発想を根本的に変えて、音を出してもいい図書館にして、静かな別室を作ることとしてもいいと思う。にぎわいと静寂空間については、いろいろな考え方があると思う。

逸見委員長

現地視察を振り返っても、話ができるオープンスペースと静かなエリアのある図書館であった。既存の図書館のイメージからの全く反対の発想で考えてもいいと思う。

(ウ)全体を通して

醍醐委員（代理）

「頼れる図書館」について、是非頑張ってもらいたい。私自身、公共施設の運営に関わることが多く、公共施設は評価が求められるが、新しい評価軸が必要と考えている。遊学館の利用者数を増やすために図書館のスペースを増やそうという考えが根本にあるが、利用者といってもいろんな人がいる。図書館に単に時間つぶしで来る人も、課題をもってきて図書館に助けられたという人も同じ利用1人とカウントされるのではどうかと思う。売り上げで一元的に評価される民間の施設とは違う。頼りになるということが大事。今後、評価のあり方とセットで、新しい公共図書館の価値を出していきたいものである。

回答（鈴木室長）

評価指標について、何もないと来館者数に目がいくが、県民が集う図書館の実現に向

けて、調査相談件数といったものも過去の数字等を調べて掲げてもいいと考えている。
後日提示することとして、意見をいただきたい。

逸見委員長

前回の検討委員会での話になったが、数値的な部分、目標値を設定してもらいたい。
利用者数だけにとらわれず、評価といったものを出してほしい。

大沼委員

先進的な多様なサービスについて、参考になるところ、目指すところはあるか。

回答（TRC）

先ほども話が出たが、千代田区立千代田図書館がある。ICタグについては、新しい図書館には標準的に入っている。デジタルサイネージはまだといったところ。有料データベースはある程度入ってきている。ICT技術の点で最先端を走っているところはないと思われる。

地域資料のデジタル化やネット公開については少しずつ広がっている。ICTは県域全体で来館できない人に対するサービスとして有効であるが、この点では先進図書館と言えるものはない。

回答（鈴木室長）

秋田県立図書館では、博物館や公文書館と連動した検索システムを導入したりしている。

大沼委員

図書館のコーディネーターについては、県民のなかで関わりたいと考えている人をうまくまとめることができるように期待したい。

(エ) 今後の進め方について

逸見委員長

基本構想の細部の調整は事務局に一任する。なお、今後の作業スケジュールはどのようになるか。

回答（大場生涯学習施設主査）

8月上旬に基本構想として固めたい。10月の第3回検討委員会には基本計画（案）を示したい。

(2) その他

質疑特になし

4 その他（大場生涯学習施設主査）

- ・第3回活性化検討委員会は10月2日（金）に県庁で開催する予定。

5 閉会